

令和7年 9月の大阪森林便り

目次

9月の木の話 住宅建築のさまざまな法律

- (1)  集成材原料、欧州産 5%安 7～9月 国内の住宅需要低迷
- (2)  国産合板在庫 2%増 7月
- (3)  住宅用木材が上昇 8月 製材品 4%、集成材 2%
- (4)  減る森林 人類試す

9月の木の話 住宅建築のさまざまな法律

☆「住宅の品質確保の促進等に関する法律」

●新築住宅の10年間瑕疵担保責任

＊新築住宅の取得契約（請負・売買）において、基本構造部分（柱や梁など住宅の構造耐力上主要な部分、雨水の侵入を防止する部分）について10年間の瑕疵担保責任（修補責任等）を負うこと。

●住宅性能表示制度

＊構造耐力、省エネルギー性能、維持管理・更新への配慮、高齢者等への配慮など10分野34事項についての性能についての客観的な共通基準とそのチェック制度、性能評価書。

●住宅専門の紛争処理体制

＊性能評価書を取得した住宅に関する施主と建築会社との紛争トラブルに関する紛争処理機関と利用方法。

☆「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律（旧ハートビル法）」

＊新築、増改築、用途変更時に、建物の「出入口」「廊下」「階段」「トイレ」などを高齢者や障害者等が円滑に利用できるように必要な措置を講じること。

☆「建築基準法（シックハウスに関する事項）」

＊居室にホルムアルデヒドを含む建材の使用制限や、24時間の換気設備を設置すること。

☆「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」

＊数世代にわたり住宅の構造躯体が使用できること、内装・設備について、特に維持管理（清掃・点検・補修・更新）を容易に行うための措置を必要とすること。

（木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ100問より抜粋引用）

(1) 集成材原料、欧州産 5%安 7～9 月

国内の住宅需要低迷 円安、値下がり限定的

- *集成材の原料となる「ラミナ（ひき板）」が 3 四半期ぶりに値下がり。
- *欧州産の 7～9 月期の対日価格は、4～6 月期に比べ 5%前後安くなりました。
- *6 月の木造住宅の新設住宅着工戸数は、前年同月比 11.9%減。
- *人件費などの上昇で住宅価格が高止まりし、消費者が住宅購入を見送っていることも背景に。

(2025 年 8 月 16 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 国産合板在庫 2%増 7 月

- *国産針葉樹合板の 7 月末の在庫量は、前月比 2.3%増の 188, 941M3。3 か月連続で増加。
- *住宅着工の落ち込みで合板の出荷が伸び悩み、在庫が滞留。
- *出荷量は前月比 3.1%増の 207, 947M3。前年同月比 0.4%減。
- *生産量は前月比 1.1%減の 212, 260M3。
- *6 月の木造住宅の新設着工戸数は前年同月比 11.9%減。

(2025 年 8 月 27 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 住宅用木材が上昇 8 月 製材品 4%、集成材 2%

生産コスト高、値上げ浸透

- *米松 KD 平角の東京地区の取引価格は、1M3 前月比 4%高。上昇は 1 年 9 か月ぶり。
- *集成平角の東京地区の取引価格は、前月比 2%高。上昇は 1 年 1 か月ぶり。
- *板材「ラミナ」の対日価格が 4～6 月期まで 2 四半期連続で上昇。
- *6 月の木造住宅の新設住宅着工戸数は前年同月比 12%減。

(2025 年 8 月 29 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(32) 減る森林 人類試す

CO₂ 吸収増でも・・・温暖化なお止まらず

- *世界の森林が吸収する二酸化炭素（CO₂）の量が増えています。
- *年間のCO₂吸収量が50年前から約50億ト増えました。
- *地球温暖化の影響で光合成が活発になりました。
- *2,023年のCO₂濃度は、産業革命工業化前に比べると50%増えました。
- *寒冷地の植物が気温上昇によって活発にCO₂を吸収しています。
- *森林の面積は減り続けており、CO₂を吸収する勢いが弱まる懸念。
- *1,992年に陸域の33%を森林が占めましたが、2022年には31%と2ポイント減。
- *世界で年間1000万ヘクタールの森林が消失し、損失は世界の年間GDPの10%に相当。
- *アジアの森林は1990年から2020年の30年で3800万ヘクタール増。
- *中国は2022年までの30年あまりで国土に対する森林面積の割合を16.3%から23.8%に。
- *欧州でも2300万ヘクタール増えました。
- *森林減少が著しいのは南半球。
- *南米とアフリカでは過去30年間で2億4000万ヘクタールが失われました。
- *日本の森林面積は2500万ヘクタールからほぼ変わらないのに、CO₂吸収量は2003年ごろの1億1000万トをピークに減り続けます。
- *原因は木の高齢化。
- *樹齢50年になると成長しにくくなり、吸収量が減ります。
- *日本の森林の4割を占める人工林のうち、すでに半数超が植えてから50年を超えました。
- *吸収量を高めるには老木を伐採して建材などに利用し、若い苗木を植えて森を若返らせるほかありません。
- *山林火災のリスクを高める高温や乾燥は温暖化で深刻になります。
- *森林を保全することは温暖化対策だけではなく、生物多様性の確保や水の浄化にもつながります。
- *いまある森を保護し、植林などで増やす必要があります。

（2025年8月31日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

